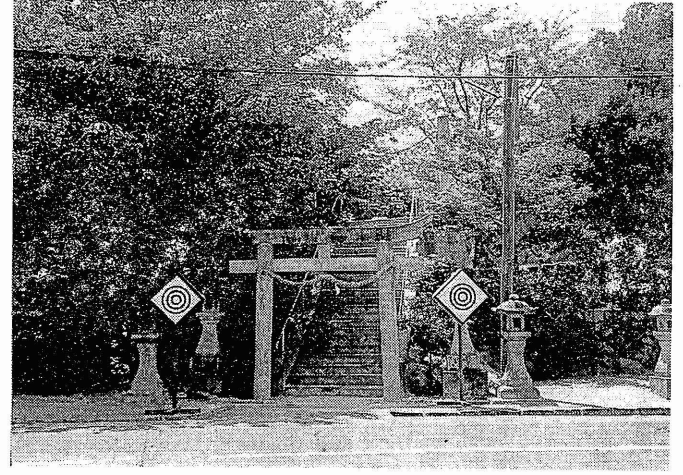
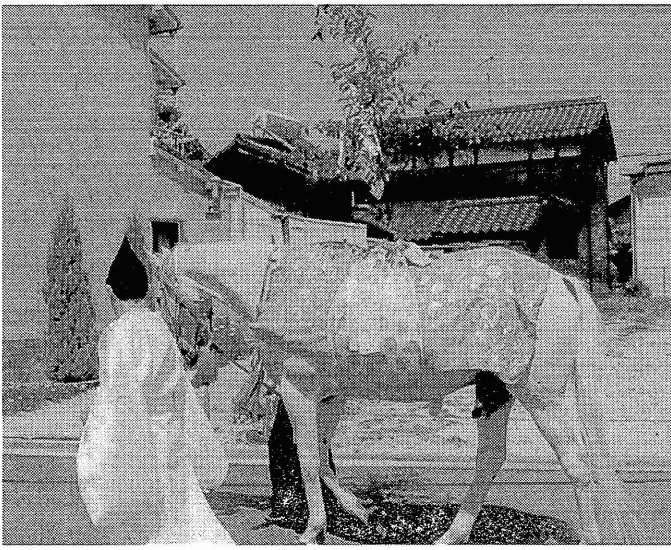


流鏑馬の装束にも、武技にも古来幾多の変遷があつて今日に至っている。

大歳神社前の鳥居の左右に的がしつらえてあり、地御前神社をスタートする時に、馬に乗ったまま天地・東西南北に矢を射た後、神社前の旧道を進み、大歳神社前の鳥居脇の的に向かつて再度矢を射るといのが、現在の方法である。

京都の下鴨神社・鎌倉の鶴岡八幡宮では、今でも往時のしきたり通り、馬を走らせながら、馬より矢を射流し、板的を射ている。

しかし地御前では、道がアスファルトになり、馬が足を滑らせて危険なので、今の様に変わったと聞いている。馬場等についても詳しく調べているが、割愛する。



流鏑馬の的

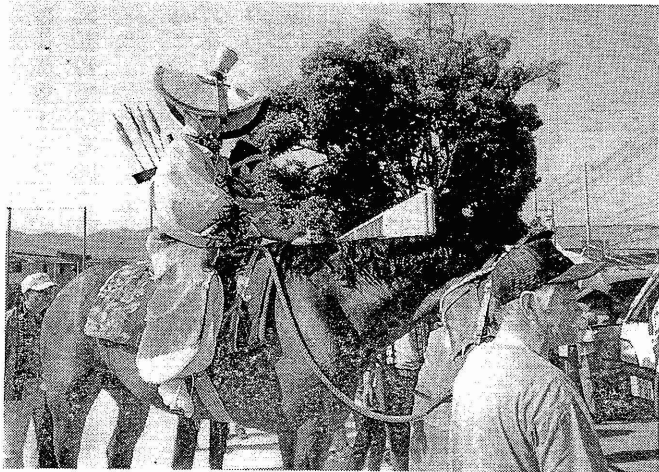
### 五、おわりに

この度の御陵衣祭については、主に『流鏑馬神事』を、廿日市の伝統文化として、次の世代への継承という観点から書かせていただいた。

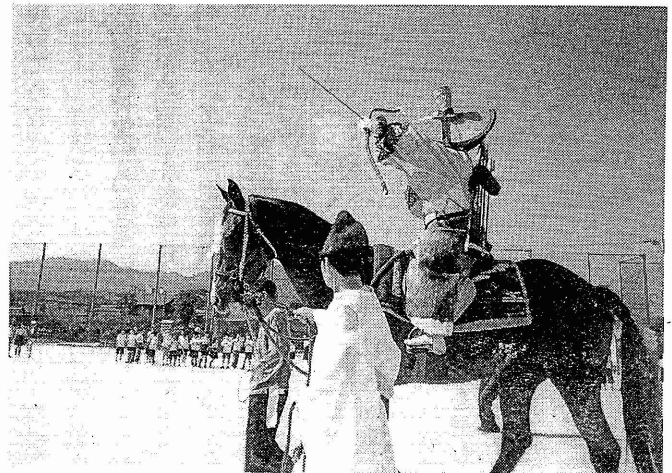
地域を挙げて伝統文化の発展・継承に、熱意ある取り組みをされている方々へ、私は、心から敬意を表しさらなる展開を目指されんことを期待している。

私もさらに、次の課題へ向けて、学びたいと思っている。

次号へ続く



小学校教諭の参考作品



地御前小3年生児童の作品